

H27

平成27年度補正
ものづくり・商業・
サービス新展開
支援補助金

有限会社アーク工業所

■事業

食品機械、医薬品分野の受注拡大に向けた
薄板板金加工体制の強化

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

バリ取り機

積極的な設備投資で 一貫した生産体制を構築

【経営理念】

「ものづくりから豊かさを創造する」～社員一人ひとりの心・暮らし・才能を豊かにし、社会の問題・課題を解決する技術を身につけ、豊かな世界を創る～

農機部品の溶接業として創業したアーク工業所は、1986(昭和61)年に東出雲町出雲郷から現在地に移転後、シートシャッター製造会社との取引が生まれ、これが飛躍のきっかけとなった。

板金分野に進出し、その後ステンレス加工にも着手。レーザー溶接機の導入によって薄板溶接に特化させるなど設備投資を積極的に行い、CAD/CAMシステムによる設計製造、2次元レーザー加工機での切断、プレスブレーキによる精密板金の曲げ加工、さらに溶接と一貫生産体制を構築した。これにより、取引先が環境設備、工作機械、省人化機械、建設機械などと幅広い業種に広がった。さらに飛躍させるには付加価値の高い食品機械、医薬品分野への受注拡大が必要で、そのためにはバリ取り加工の自動機械化による高品質化が不可欠であり、バリ取り機の導入に踏み切った。

機械導入により生産効率向上 事業拡大に寄与

バリ取り機によって、加工品の仕上がり精度が飛躍的に向上した。それまでは工具を使い、人の手で切断面の一辺ごとに行っていたが、ばらつきが避けられなかった。バリ取り機は、コンベヤーに載せて通すだけで済み、品質が向上、スピードもアップして作業が大幅に軽減された。発注から納期までのリードタイムが3割短縮化され、コストも削減された。これにより新たに食品や医薬品の包装機械メーカー、工作機械メーカーなどの受注を獲得し、事業を拡大させている。



代表取締役社長 柏井一博

☒ものづくり技術 ☐革新的サービス



1 導入したバリ取り器
2 レーザー加工機
3 プレスブレーキ
4 溶接の様子



強みを伸ばし 若い力で更に成長を

アーク工業所は一点ものや緊急性の高い加工など多品種少量生産が可能で、さらに短期納入という小回りの利く対応が強み。2019(令和元)年にはポータブルスポット溶接機を導入し、大物のスポット溶接にも対応できるようにした。企業間ネットワークを構築しており、塗装処理や各種メッキ、機械加工などを含む生産体制も整えている。柏井一博社長は「従業員の平均年齢は30代前半という若い会社で、人材育成と営業力を強化し、もっともっと成長させたい」と決意を込めた。

■Company Data

有限会社アーク工業所



アーク工業所

代表者名：柏井一博
創業年：1972(昭和47)年
設立年：1991(平成3)年
資本金：9,000千円
従業員数：6名
主たる業種：生産用機械器具製造業
本社：〒699-0106 松江市東出雲町春日323・5
電話：0852-52-4269
FAX：0852-52-3395
URL：<https://arc-industry.jp>